

ご機嫌いかがかな
ユースティアナ王女

こんなことをして…
一体何が目的なんですか…

くく…
そんな姿にされて
まだわからないとでも？

お前のすべてを
いただくのさ

力も身体も…
いずれは心までな

な…なにをされても
私は絶対にあなたに
屈したりしませんっ!!

ふう やはり
よい触り心地だ

ずっとこの身体を
好きにしたいと
思っていた

我慢することはない
これだけ媚毒が
満ちた部屋にいたんだ

身体が疼いて
疼いて仕方が
なかっただろう？

んっ…!!
ふ…くう…

触らないで…
くださる…っ

やっぱり…っ
この匂いはそういう…っ
んっ…うあっ…卑怯…です…っ

ゼンゼン

んっ…!!

むいっ
むいっ
むいっ

ぐっ
ぐっ
ぐっ

ゼンゼン

んっ♡

そこ…っはあ…っ!!

んっ♡

んっ♡

んっ♡

こんなに簡単に
指を咥え込んで…
はしたない王女様だ

感じないと
言っていた割には…

くく、随分大層な
濡れ具合じゃないか

んっ♡

んっ♡

はあ…♡

もみ♡
もみ♡

んっ…あつ♡
これ…はっ
毒のせいであつ♡

ぬち♡
ぬち♡

ぬち♡



それだけじゃ…ない…
この人…さつきから
ずっと私の弱い所ばかり…っ

だめ、です…っ♡
こんな…ひどいこと
されてるのに…っ♡

もう…我慢できな…っ♡

い、やう…!!
あ、う…~~~~~!!

ぬち♡

ぬぽ♡

ぬち♡

ぬぽ♡

ん♡

ん♡

や♡

ん♡

ん♡

ん♡



あっ!!
♡

あぁぁぁあっ!!
♡♡♡

プン

グン

キウ

キウ

ツンツン

ツンツン

ツンツン

はあ…はあ…っ

こんな簡単に
イカされ…
いえ、そんなことより…っ

どうして…っ
力…消えて…っ

言っただろう？
力もいただと

その力…
プリンセスフォームとか
言ったか？

意識がはっきりしている内は
干渉するのも難しいが…
こうして絶頂させて精神に
隙を作ってやればこの通りよ

くく…
頑張って耐えねば
すぐに丸裸になって
しまうぞ？

まずい、です…っ
隙を見て脱出しようと
思っていたのに…

もう絶対に
イカされない
ようにしないと…っ

おっ
おっ

さて……

次はこいつで
お前の奥まで
かき乱してやると
しよう

ユウキくんのと
全然ちが…っ

お願いします!!
他のことならなんでも
しますから…っ

それだけは…っ

……っ!?

安心しろ
痛めつけたりしない
むしろ天国に
連れて行ってやろう

なん、ですか…あれ…
男の人の…あんな黒くて…
大きくて…禍々しい…

いや、です…っ!!

いやっ…いやあっ!!





ぬ、おお…
ついにユースティアナの…
この国の王女の膣に
入れてやったぞ…っ!!

これが王女の…
ふうっ…たまらんっ…

ユウキ…くん…
ごめんなさい…

私…穢されて
しまいました…

ぬちゅあ…

ぬちゅい

ふっ...くっ...っ!!

動かないで...
くださっ...

なぜだ?
お前のここは
こうも俺のモノを
歓迎しているというのに

一突きすること
に
膣の中で髪が蠢いて...

涎のように
愛液を吹き零してる
ではないか

ふんっ
それにしても

奥の方はまるで
こなれておらんな

まるで処女のようなだ

お付きのガキは
随分と粗末なモノの
持ち主のようなだ

これまで
さぞ不満だった
ことだろう

彼のことを…っ
バカにしないで
くださいっ!!

ユウキくんは
あなたと違って
とっても優しくて…っ

優しく…?
違うな

そいつは知らんだだけだ
女の扱い方というものをな

んキウッ

おっぱい...っ
触りながら
奥突いちやつ♡

哀れだな
これほど素晴らしい
身体を持ちながら番の男に
恵まれなかったとは

俺がたっぷりと
教えてやろう

本当の男女の
交わりというものを

雄への媚び方も

この
いやらしい身体の
使い方もな



んああっ!!♡
おっ…奥うっ!!♡

おっきいのが…っ♡
ごりっ…ごりっでえっ♡
んあっ、あっ…ああっ♡

そうだ
しっかり意識しろ

そこが子宮だ

お前たち雌は
そこで物を考えろ
頭で考えるな
子宮が出す命令に従え

今誰がお前と
繋がっている？

今誰がお前を
気持ちよくしている？

今誰に媚びれば
もっと気持ちよくなれる？

これ…っ
ダメです…っ♡

奥…っ♡
突かれると
頭真っ白になって…っ

気持ちよすぎて
なにも
考えられなく…っ♡

これっ…無理っ♡

いくの耐えるのなんて
絶対無理です…っ♡

キモチいいっ♡

キモチいいっ♡

キモチいいっ♡

いい締め付けだ

分かるぞ
もうイきそう
なのだろう？

立場も責務も…
煩わしきは
すべて俺が
忘れさせてやろう

お前は王女より
浅ましい淫婦の方が
お似合いだ

さあイけ
ユースティアナ
お前の“主人”の命令
だぞ？

代わりに快楽で
お前を満たしてやる

一瞬の快楽のために
国も民も仲間も
すべてを捧げる
最低の女になれ

んああっ♡
はっ…ああっ♡
イ…イっくう…っ♡

イクっ!!♡
イグっ!!♡

イ……っぎゅううううう!!♡♡♡♡



あつ…ああつ♡
奥う…びゆくびゆくつて
熱いのが…♡

んが♡

これ…♡
すごお…♡

ダメ…です…♡
こんなの覚えちゃ…♡

だってこんなの…
ユウキくんじゃ
絶対…♡

子宮…にい…♡
流れ込んできて…♡

あ…♡

んが♡

んが♡

んが♡

んが♡

んが♡

んが♡

んが♡



私…っ
なに考えて…っ♡
んあっ♡

なか…震えて…ます…♡
これ…まだ…っ♡

はあ♡

この身体相手に
一発で終わるなぞ
ありえんわ

さあ続けるぞ
このままお前の力を
搾り尽くしてやる

はあ♡

そして上書きしてやろう

前の男のことなぞ
思い出せなくなるくらいに
俺に溺れさせてやる

そんな…
こんなこと
これ以上されたら…っ

このままじゃ…
本当にこの人に
逆らえなくなっちゃいます…っ







んおっ♡
おっ…おおっ…♡

これで8度目の絶頂か
思っていたより
粘った方だが……

くく……
どうやらそろそろ
限界のようだな

おっ...おっ...
ほっ...っ





くく…っ
くははっ!!

これでもう
お前の身を守る
ものは何もない

ユースティアナ

ゼンゼン

ガッガッ

もはや
お前は王女でも
戦士でもない

ただの一匹の牝だ

ゼンゼン

ドクドク

ちから…完全に
うばわれて…

わたし…
もうこの人に…
逆らえな…

さあ来い
次はベッドで
可愛がつてやる

ドクドク







ユウキ……くん……

はやく……助けに
来てください……

む……

ん……

ん……

じゃないと私……

は……

は……

く……

本当に
この人のモノに
なっちゃいます……♡

ん……

ん……

く……ついに
ユースティアナを……
プリンセスの力を
手に入れてやったぞ……!!

だがこれでは
まだ足りん……

所詮これは
あのガキの力の
残滓のようなもの

完全にこの力を
モノにするためには
同じ力を持つものを
もっと手に入れなければ……

次に狙うのは……
く……
あのピンクの髪の
女がいいだろう

ユースティアナに
負けず劣らず
良い身体を
しているからな

あの身体をモノにして
ユースティアナと並んで
楽しんでやるとしよう

楽しみだ……

力も女も……

~~~~~

この世界のすべてが  
俺のものになる日がな……

~~~~~

















































